

令和5年度 教科シラバス

教科	国語	科目	国語表現
単位数	3単位	レポート	9回
教科書	国語表現改訂版(大修館書店)	副教材	国語表現改訂版国語表現練習ノート

学習目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を伸ばすことで言語感覚を磨き、実社会の充実を図る。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
(1)「書いて伝える」 (レポート①)	(5)「会話・議論・発表」 (レポート⑥)
(2)「小論文・レポート入門」 (レポート②、③)	(6)「声とコミュニケーション」 (レポート⑦)
(3)「メディアを駆使する」 (レポート④)	(7)「自己PRと面接」 (レポート⑧)
(4)「表現を楽しむ」 (レポート⑤)	(8)「表現を楽しむ」 (レポート⑨)
前期考査範囲	後期考査範囲

学習方法

デザイン・アート
<p>様々なことを文章で表現するので、自分の意見や考えを根拠に基づいて文章化できるようにする。授業に参加し、様々な活動（話す、聞く、書く、読む）を通じて内容の理解を深める。単元によっては活動的要素を取り入れて授業を進める。副教材を活用して学習のまとめをおこなう。</p>

評価方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・発問評価 ・レポート評価 ・ポートフォリオ評価 ・定期考査（4回）

評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
<p>伝え合う力、思考力、想像力を高めるとともに、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め国語を尊重しようとする。</p>	<p>状況に応じた話題を選んで説明したり、課題に応じた内容をまとめて報告や発表をしたりして自分の考えをまとめている。</p>	<p>相手や目的に応じて文体や語句を工夫し、適切な表現を考え、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる。</p>	<p>幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたりもの見方、感じ方、考え方が深まったりする。</p>	<p>感じ、語句の意味、用法、文章の組み立てなどについて理解し、知識として身につけている。</p>

令和5年度 教科シラバス

教科	国語	科目	現代文B
単位数	3単位	レポート	9回
教科書	精選現代文B（東京書籍）	副教材	読解評論文キーワード改訂版（筑摩） 積みあがる精選現代文3改訂版（Learn-S）

学習目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
(1) 評論「言語と記号」 (レポート①)	(6) 小説「舞姫」 (レポート⑥)
(2) 小説「檸檬」 (レポート②)	(7) 評論「社会の壊れる時」 (レポート⑦)
(3) 評論「環境問題と孤立した個人」 (レポート③)	(8) 小説「トランジット」 (レポート⑧)
(4) 随想「言葉を生きる」 (レポート④)	(9) 小説「サッカーにおける『資本主義の精神』」 (レポート⑨)
(5) 評論「他社の声 実在の声」 (レポート⑤)	後期考査範囲
前期考査範囲	

学習方法

デザイン・アート
随想、小説、評論、詩歌をとりあげます。授業プリントやレポート、副教材を活用し、内容の整理とまとめの学習をおこなう。

評価方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察・授業態度（出席率等も含む） ・発問評価 ・レポート評価 ・定期考査（4回） ・授業態度（出席率等も含む）

評価の観点

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解
伝え合う力、思考力、想像力を高めるとともに、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め国語を尊重しようとする。	状況に応じた話題を選んで説明したり、課題に応じた内容をまとめて報告や発表をしたりして自分の考えをまとめている。	相手や目的に応じて文体や語句を工夫し、適切な表現を考え、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたりものの見方、感じ方、考え方が深まったりする。	漢字、語句の意味、用法、文章の組み立てなどについて理解し、知識として身につけている。

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	6		4
教科書		副教材等		
最新現代社会 新訂版 (実教出版)		最新現代社会 演習ノート (実教出版)		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学「公民」での学習の復習もしながら、現代社会を政治・経済・文化・倫理 など多方面から 探究し、現代社会の全体像を客観的に把握する。 ・ 現代社会のあるべき姿とそこに生きる人間のあり方を考えられる態度を育て、複雑多様で変化も 大きい現代社会において、他に流される ことなく、主体的に生き、民主的・平和的な国家社会の 有為な形成者の1人となりうる力を育てる。 				
学 習 内 容				
【前期】 ○教科書は、P 6～109までを学習。 ○学習の中心は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期と自己形成 (第1回) <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分らしく生きる ・ 科学と人間 (第2回) <ul style="list-style-type: none"> ベーコンとデカルト、ベンサムとミル ・ 現代社会の課題 (第3回) <ol style="list-style-type: none"> 3. 生命科学と情報技術の課題 ・ 現代の民主政治と日本国憲法 (第4・5回) <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代国家と民主政治 2. 日本国憲法の基本的性格 		【後期】 ○教科書はP 110～201までを学習。 ○学習の中心は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の経済社会と国民生活 (第5回) <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の経済 2 日本経済の特質と国民生活 ・ 国際社会と人類の課題 (第6回) <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際政治の動向 2. 国際経済の動向と国際協力 		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の説明を聞く。理解が困難な部分については、授業時等に質問して明らかにする。 ・ 教科書本文を丁寧に読む。副教材を利用する。 ・ テーマを設定し、調べ、まとめ、発表・聞き取り・質問し、自己・他者評価する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの提出と評価、考査の成績、授業態度を総合的に判断して評価する。				
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に 取り組む態度		
現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。 現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。		
担 当 者 よ り 一 言				
先行き不透明な社会を生き抜く力を身に付けます。自分自身と結びつけながら学んでください。				

令和5年度 教科シラバス

教科	保健体育	科目	体育（3年次）
単位数	デ：2単位 キヤ：3単位	レポート	3回
教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材	ステップアップ高校スポーツ等

学習目標

<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>（第1回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストについて ・体育と私 ・体づくり運動 <p>（第2回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし運動の行い方 ・バドミントン ・ダンス ・体づくり運動 	<p>（第3回レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞等の記事をレポートにまとめる。 ・体づくり運動

学習方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技は、それぞれの時間を楽しみながら実践する。身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。

評価方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・実技テスト ・レポート評価

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。</p>

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必修	2	6	23	
教科書		副教材等		
美術2				
学 習 目 標				
<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・表現や美術の役割について学習する。 ・心で捉えたイメージを色と形で表す。 ・空想の生物をつくる。 ・素材を生かした可能性をさぐる。 ・視覚伝達を考える。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシートなどを活用する。 ・授業に参加し、制作活動を通して内容の理解を深める。 ・調べ学習や発表を通して知見を広げる。 ・期限を守って作品を完成させ、併せてレポートも提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品や提出物などで総合的に判断し評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 ・粘り強く制作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をしている。 ・造形的よさや美しさなどを生かした制作の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて制作方法を創意工夫し、材料や用具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・イメージや作品について言葉で説明できる。 ・美術の基礎的な知識を理解している。 	
担 当 者 よ り 一 言				
<p>作品を制作し美術のよさを感じ取ります。 楽しく制作しましょう。</p>				

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	工芸Ⅱ
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	工芸Ⅱ(日本文教出版)	副教材	プリントを配布

学習目標

- ・縄文土器から近代の工芸品に至るまでの歴史を学び、現代に於ける工芸品の在り方を考察する。
- ・古代、中世、近代の工芸品を制作することで、工芸品の担う役割と制作技法を学ぶ。
- ・大量生産と手作りの違いを理解させることで、工芸品ならではの魅力を体感する。
- ・工芸分野の特徴である「実用性」と「芸術性」の共存を理解し、自分なりの思想を膨らませる。
- ・ただ作品を作るだけではなく、工芸品としてのあり方を各々が考察し、言語化する力を養う。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>◎第Ⅰ章 縄文土器制作を通じた考察 精巧な縄文土器のレプリカを作成するか、破片から想像する土器の復元のどちらかに着手する。両者とも学術的な考察から復元し、資料をA1用紙に纏め、研究発表とする。 (レポート①)</p> <p>◎第Ⅱ章 銀粘土を使った装飾品制作 身に付けられる工芸品(装飾品)をテーマに、銀粘土を使用して指輪制作をする。意外と知られていないアクセサリの制作方法に加え、精密な作業をテーマとする。 (レポート②)</p>	<p>◎第Ⅲ章 漆を使った工芸品の理解 楽器など、本来漆製品であったものがカシューの使用により安価で手に入るようになっている。本漆とカシューの違いを理解し、漆製品ができるまでをカシューを用いて体験する。 (レポート③)</p> <p>◎第Ⅳ章 箔を使った工芸品の理解 カシュー作品に砂子を撒くなどし、箔の扱いに慣れる。漆と箔の織りなす美を体感する。 (レポート④⑤)</p> <p>◎第Ⅴ章 手作りと大量生産 様々な工芸品の技法に触れたことで、「自分自身が今後の工芸品や日用品などに求める価値観の変化」、「求めるもの」をディスカッションする。 (レポート⑥)</p>

学習方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
「実物の参考作品の良さ」や「教員のデモンストレーション」を生徒に見せることで、より深く学習させる。		

評価方法

デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（出席率等も含む） ・作品評価①（完成度） ・作品評価②（創意工夫） ・レポート評価（6回） 		

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
考察力と作品を表現するための知識。またそれらを実行するための技能を中心に、各々が必要とする内容をよく理解し、実行に移せたか。	工芸品が持つ魅力や技法についてより多く理解しようとする姿勢、またそれらを自身の技術や価値観として取り入れ、研究の幅を広げようとする探究心。	生活の中は工芸品で溢れていることを理解し、それらに敏感に反応する姿勢。美術館や書籍で知見の幅を広げようとする意欲的な態度。

令和5年度 教科シラバス

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ
単位数	4単位	レポート	12回
副教材	MY WAY English Communication Ⅲ New Edition (三省堂)	副教材	MY WAY English Communication Ⅲ New Edition ワークブック STANDARD(三省堂) チャンクで英単語 Advanced(三省堂)

学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

学習内容

前期 (4月～9月)	後期 (10月～2月)
<ul style="list-style-type: none"> Unit1 Reading Skill 1～11 Unit2 Lesson 1～8 (レポート①～⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> Unit3 Lesson 9～14 (レポート⑦～⑫)

学習方法

デザイン・アート
<ul style="list-style-type: none"> Unit1 では、Reading Skill を用いたより効果的な読み方を学習する。 Unit2、3 ではより長い文章を読んでいく。各課のまとめとして本文を要約したり、本文の内容に関する自分の考えや感じたことを書いたり話したりする。 各課のまとめとして、単語の小テストを行う。 『チャンクで英単語』を使って語彙力を高める。

評価方法

デザイン・アート
授業態度 (出席率等も含む)、発表内容、小テスト、課題提出、レポート評価、定期考査 (4回)

評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	外国語で話したり、書いたりして、情報や考えなどを適切に表現している。	外国語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化なども理解している。

令和5年度 教科シラバス			
教科	外国語	科目	英語会話
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	「 Sailing English conversation 」 啓林館	副教材	「Sailing English conversation ワークブック」 啓林館 チャンクで英単語 Basic 三省堂
学習目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・英語での情報や考えを理解する、自分の考えを発表するなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、身近な話題について会話する能力を養う。 ・異なる文化を理解し尊重する態度を育てる。 			
学習内容			
前期（4～9月）		後期（10～2月）	
教科書 Lesson1～Lesson 2 自己紹介・他人紹介・予定の聞き方・過去の出来事の質問（レポート①②）（前期中間考査） 教科書 Lesson 3～4 ・飛行機内での会話・電話での応答（レポート③）（前期期末考査）（前期考査）		教科書 Lesson 5～7 道案内・買い物の仕方・相手をほめる・（レポート④⑤）（後期中間考査） Lesson 8～10（レポート⑥） 体調の聞き方・職業・家事について（後期期末考査）（後期考査）	
学習方法			
デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型	
教科書の表現を使って、実際の場面を想定し会話表現してみる。好きなものや町紹介等、長い文を書き、発表する。	会話練習、副教材で練習 リスニング練習 チャンクで英単語を用いて簡単な文を書く練習をする。	会話を聞き、副教材を用いて練習する。 1時間あたり、レポートの範囲を進める。	
評価方法			
デザイン・アート	キャリア週4日登校型	キャリア週1日登校型	
・授業態度 ・自己表現 ・レポート評価 ・定期考査（4回）	・授業態度 ・自己表現 ・レポート評価 ・定期考査（4回）	・授業態度（出席率等も含む） ・レポート評価 ・定期考査（2回）	
評価の観点			
コミュニケーションの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な問題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識、その背景にある文化なども理解している。

令和4年度 教科シラバス

教科	美術	科目	デッサンⅡ
単位数	3	レポート	7回
教科書	日本文教出版「高校生の美術1」 日本文教出版「高校生の美術2」	副教材	アトリエハイデ「デッサンの基本」

学習目標

物をよく観察する力。観察した結果を表現する力。この二つを繰り返すことで、自分の表現の強みを見つける。また、集中力の向上や単なる技術の向上だけでなく、様々な「発見」をしながら表現の基礎力を身につけ、自分自身を向上していく。

学習内容

① 卓上デッサン ② 石膏デッサン ③ 細密デッサン ④ 人体デッサン ⑤ 想定デッサン
⑥ 組み静物デッサン ⑦ 自画像 ※順番が前後する可能性あり

学習方法

モチーフはもちろん、制作の全ての段階でよく見て確認すること。
集中して作品と向き合い、毎回の講評では自分自身を振り返ること。
自分の良い表現やクセ、他人の作品の良さも受け止めること。

評価方法

授業中に集中して制作を行っているか。課題に対して実直に向き合って制作しているか。
毎回きちんと出席しているか。
制作にあたっての準備や片付けまで丁寧に、計画的に行っているか。
レポートにおいてしっかりと自分を振り返り、自分の良さや次回へ向けての課題を見据えているか。

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
美術やデザインの表現方法に興味関心を持ち、ながら制作している。課題の意図を理解し、素直に、対象物を捉えている。	自分なりに表現の目的や狙いを持ち、また工夫をしており、適した用具の使用法を理解している。計画的に作業を進めている。	丁寧に作業を行い、冷静に自分の作品を判断している。「描き方」だけではなく、表現したい事が明確である。	作品を味わい、自らの見方を深めている。また、他者の作品や意見を理解しようとしている。

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	6	6	60	
教科書		副教材等		
高校生の美術2				
学 習 目 標				
<p>(1) アートに関する各領域表現の特質について理解を深めるとともに、意図に基づいて表現するための専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・平面作品では、1年次で学習した基礎的な技法を礎に、絵画の特質と自身の表現を探究していきます。 ・立体作品では、表現1で学習したことを基に様々な表現方法を模索しながら作品制作に取り組みます。 ・卒業制作展に向けて作品を制作する。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料などを活用する。 ・授業に参加し、制作活動を通して内容の理解を深める。 ・作品は期限を守って完成させ併せてレポートを提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品、提出物と期限厳守などで総合的に判断し評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<ul style="list-style-type: none"> ・美術文化や表現技法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く制作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを膨らませたり、構想を練ったり、計画的に取り組んでいる。 ・表現する際に、適した道具や表現技法を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の持つ造形的なよさを捉え、制作するための基礎的な技能を習得している。 ・学んだ技法や技術を表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや作品について言葉で説明できる。 ・美術などの基礎的な知識を理解している。 	
担 当 者 よ り 一 言				
<p>ファインアートにおいて必要なことを学びます。</p> <p>卒業作品制作となりますので今までに学んだことを生かしておもいきり表現しましょう。</p>				

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	表現Ⅱ（デザイン）
単位数	6	レポート	6回
教科書	日本文教出版「高校生の美術1」 日本文教出版「高校生の美術2」 日本文教出版「高校生の美術3」	副教材	なし

学習目標

大判のデザイン作品や商店街の方達との制作を行い、デザインの考え方、制作について更に深く学ぶ。また、表現の幅を広げて個々のアイディア力や発想力を向上する。

学習内容

- ① 平面構成（アクリル絵の具での多彩な表現） 2 課題
- ② 商品企画（2 課題）
- ③ 自主制作（卒業制作展へ向けて）
- ④ 鑑賞
- ⑤ 箸づくり

学習方法

授業内の指示を良く聞き、積極的にメモを取る事。制作過程や素材について、自分なりに理解し、制作を行いましょう。またデッサン力（物をよく見て認識する力）が今まで以上に重要になってきます。多視点で物を見て、分析し、作品に自分の考えを反映出来る様に日常生活でも様々なものに眼を向けてください。

評価方法

課題の内容に沿って工夫し、表現出来ているかや、目的がずれていないかで作品を評価します。また、相手の事を考えて制作しているか、作品の表現が明快でありデザインの「使う・伝える」という目的を形に出来ているかを評価します。

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
美術やデザインの表現方法に興味関心を持ち、制作している。課題の意図を理解し、積極的に様々な表現に挑戦している。	自分なりに表現の目的や狙いをもち、表現する工夫をしており、適した用具の使用法を理解している。	丁寧に作業を行い、冷静に自分の作品を判断している。第3者にも伝わり、分かりやすく表現されている。	作品を味わい、自らの見方を深めている。また、他者の作品や意見を理解しようとしている。

令和5年度 教科シラバス

教科	美術	科目	表現Ⅱ（映像）
単位数	6単位	レポート	6回
教科書	美術Ⅰ（光村図書）	副教材	課題に応じて参考作品などを提示する。

学習目標

映像制作の過程を演習しながら作品構成の手法を身に付ける。映像表現の特性について理解を深め、伝えたい情報を整理して相手に伝える手法を学ぶ。自分の視点やアイデアを基に企画や演出など映像表現の構想を練ることができるようになる。

学習内容

映像の原理や制作過程を学習し、企画、制作計画にも留意して、編集ソフト等を使用した映像作品を制作と作品鑑賞、レポート課題を行う。内容として下記の課題を行う。

- 1、映像編集による表現（映像構成や音声による総合的な表現）
- 2、自分のテーマに基づいた映像作品の制作
- 3、制作作品のプロモーション
- 4、映像作品の鑑賞

学習方法

自分が何を伝えたいのかを常に意識して、作品と向き合い、客観性を持ちながら制作に取り組むこと。制作は計画的に行い、締切は厳守すること。また、自分の表現を追求するだけでなく、他者の作品の良さも受け入れながら学習を行うこと。

評価方法

計画や制作の意図が明確か。集中して授業に取り組んでいるか。
映像制作を楽しみながら、見やすさや完成度を意識して制作を行っているか。
ワークシート、完成作品、プレゼンテーション、レポートを参考に下記の観点で評価を行う。

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
映像表現の特性などを理解して、企画・撮影・編集を行っている。また作品を通して、表現したいことが明確である	自分の視点やアイデアを基に構想を練り、表現方法や計画を設定して制作を進めている。 また映像表現の特性を活かした撮影、編集等の映像表現を行なっている。	映像表現に興味関心を持ちながら制作を行っている。 課題の意図を理解して、目的を達成のために表現に取り組んでいる。

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	4	4	23	
教科書		副教材等		
高校生の美術2				
学 習 目 標				
<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p>(4) 生徒一人一人が造形活動を通して、自己の進路について主体的に考え、その実現に向けて取り組む姿勢を養う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進路に向けて調べ学習をする。 ・創造的で個性的な制作に取り組む。 ・進路に向けた実践的課題をする。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシートなどを活用する。 ・授業に参加し、活動を通して内容の理解を深める。 ・期限を守り、課題及びレポートを提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品、提出物・期限厳守などで総合的に判断し評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く制作に取り組んでいる。 ・主体的に自身の進路に向き合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを膨らませたり、構想を練ったり、計画的に取り組んでいる。 ・表現する際に、適した道具や表現技法を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の持つ造形的なよさを捉え、制作するための基礎的な技能を習得している。 ・学んだ技法や技術を表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや作品について言葉で説明できる。 ・美術や造形などの基礎的な知識を理解している。 ・知り得た知識を自身の進路へ生かしている。 	
担 当 者 よ り 一 言				
<p>主に大学受験において必要なことを学習します。</p> <p>自主的な姿勢が問われますので、積極的に取り組みましょう。</p>				

令和5年度 教科シラバス

教科	総合的な探究の時間	科目	総合的な探究の時間
単位数	1単位	レポート	2回（制作した作品を含む）
教科書		副教材	

学習目標

- ・探究的な学習のプロセスを意識しながら、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えつつ、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。
- ・探究的な学習を通して、職業・学問についての学びを深め、自己の興味関心と適性を把握し、社会と自己とを関連付けてとらえていく。

学習内容

前期（4～9月）及び後期（10～2月）

- ・SDGsの概要について、社会で問題となっている事柄と関連付けながら学習する。（映像学習も含む。）
- ・SDGsの17の目標のうち気になるものを複数選定し、資料やデータなどを関連付けてより詳しく調べる。
- ・ポスターについての基礎知識を学習する。
- ・プレゼンテーションについての基礎知識を学習する。
- ・選定した目標に関連するテーマを自ら設定し、どのような形式で表現するかを考えてポスターを制作する。
- ・仕上がったポスター作品をクラス内でプレゼンテーション（作品に関するコンセプト、選定した目標についての調査結果などを含む）する。
- ・卒業制作展で校外外に向けて作品、作品制作の過程でまとめたレポート等を展示、発表する。

学習方法

デザイン・アート

インターネットや書籍、映像等を活用して表現してみたいテーマを設定し、社会問題と自身の興味関心と関連付けながら調査し、ワークシートやレポートを作成する。
調べたことを踏まえながらポスターを作成し表現する。

評価方法

デザイン・アート

ワークシート、レポート、作品、プレゼンテーション

評価の観点

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に取り組む態度
ポスターやプレゼンテーションに関する基礎知識を理解している。 インターネット、書籍、映像などで示される複数の資料を活用し、自分に必要な情報を収集し、整理・分析することができる。	選定した目標について社会の課題と自己の興味関心と関連付けて考えることができている。 調べたことを踏まえて自ら考えたことを論理的にまとめ、自身の作品に表現することができる。	活動の趣旨を理解し、主体的に取り組んでいる。 自身も社会の一員であるという意識を持ち、様々な社会的課題について何ができるかを考え、行動することができる。